

## ●「季節」感じるコース

宮崎平野の南端に、ひととき高くそびえている山が、鱈塚山（一、二一八メートル）である。霧島山を別にすれば、県南部の最高峰。山頂からの展望は壮大で、東に宮崎市街から日向灘、西に都城盆地と霧島連山、北に尾鈴山、南に遠く桜島、開聞岳を望むことができる。都市近郊で、これほど眺望の優れた山は少ない。

山頂にテレビ塔がいくつも立っており、ふもとの持田地区から舗装路（県道鱈塚停車場線）が通じている。車だと山頂まで約三十分。以前は田野町楠原に登山口があったが、今は閉鎖されている。

一九六一（昭和三十六）年、鱈塚山一帯は、「わにつか県立公園」になった。鱈塚停車場線を行くと、途中に「わにつか渓谷いこいの広場」があり、ここから登山道が整備されている。標高千メートルあたりから天然林が残り、ヒメシヤラ、

モミなどの美しい樹林の中を歩く。足元から突然、コジユケイが飛び立ってびっくりすることもある。

山道を登って約二時間。山頂からの眺望を楽しみながら、おにぎりに田野名産の漬物を添えての昼食は、必ず「ふるさと賛歌」を呼び起こすだろう。鱈塚山のふもとは、南西部の三股町に沖水川の源流が流れくだって長田峡、南には広渡川が板谷渓谷をつくり、途中に広渡ダムがある。北東には、清武川の上流となる二つの川が流れる。

県立公園の中心「いこいの広場」にはバンガロー、キャンプ場、テニスコート、水遊び場などが整備され、夏休みには家族連れなどでにぎわう。また、清武川の上流になる尻無川沿いにはモミジなどが植えられ、秋の紅葉の季節も美しい。宮崎市からも近く、手ごろなハイキング

コースとなっている。

太平洋戦争の前後、本県でも森林の荒廃が進んだ。松くい虫の被害も広がり、県内全域で多くの緑が失われた。しかし、その後の国や県の植林の努力が実り、緑化が進んだ。鱈塚山全域の植林もめざましく、田野町の山は飴肥杉一色に見えるほど。田野町から隣の北郷町にいたる山の杉林を見ると、本県が全国一の杉丸太の生産地であることを納得させられる。

田野町からは、県道（日南・高岡線）が、鱈塚山の東の尾根である大戸野峠を越えて北郷町に通じている。この道筋も自然が美しい。沿道に植えられた桜とモミジは、山里らしい季節の美を楽しませてくれる。途中に「道の駅」も整備されている。

甲斐亮典



わにつか渓谷いこいの広場。夏はキャンプ客でにぎわう